

# 新任教員紹介



**武田秀雄 教授**  
工学部 電気電子工学科

2012年3月1日に電気電子工学科に着任しました武田です。電機メーカーで30数年、電力向け直流送電、周波数変換のシステムエンジニアリングと制御保護装置の開発、設計を担当しました。関連する国内の全ての設備開発、建設に携わるとともに、海外にも納入しました。

これらの豊富な経験をもとに、これからはエネルギーの効率的な運用を主要テーマとして研究を進めようと考えております。工学の全分野と言っても過言ではないほどの様々な技術の集大成が初めてエネルギーは作られ、配分されます。この価値ある技術を学ぶとともに、この分野の楽しさを皆さんと共有したいと思います。



**竹内義則 准教授**  
情報学部 情報システム学科  
コンピュータサイエンス専攻

4月1日より情報学部情報システム学科コンピュータサイエンス専攻に赴任しました竹内義則です。専門は、視覚情報処理、聴覚情報処理、福祉情報工学です。コンピュータが物を見る、音を聞くという研究を行っています。その応用分野として、視覚や聴覚に障害がある人に対して代替手段を提供する研究も行っています。本学では、音声映像処理の講義や卒業研究を通じて将来リーダーシップを発揮できる人を育てていきたいと思っています。



**橋本雄一 教授**  
工学部 電気電子工学科

2012年3月1日に電気電子工学科へ着任した橋本です。私は企業で、主にコピー機の心臓部ともいべき有機感光体の研究開発に携わってきました。入社当時は有機という未知の世界へ足を踏み入れ困惑しましたが、大学で学んだ電気電子の知識が全く役に立たないわけではなく、逆に非常に重要であることに気づきました。電気電子の皆さんが大学で学ぶ専門講座は多岐にわたりますが、それらがエレクトロニクス以外の多くの分野で役に立つことを頭の隅に留めて勉学に励むことを望みます。



**柴田慎一 講師**  
情報学部 情報システム学科  
コンピュータサイエンス専攻

平成24年度4月1日付で大同大学情報学部情報システム学科の講師として採用して頂きました。平成24年3月に金沢大学自然科学研究科博士課程を修了しました。これまでは、ガスセンサや植物センサを用いた環境認識をテーマとしてセンサ情報を扱った研究を行ってきました。また、他の研究分野のテーマにも着手しております。また教育・研究に関して半人前の未熟者ではありますが、これから数年かけて一人前の教育・研究者となれるよう努力していく所存です。皆様の御指導・御鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。



**徳納一成 教授**  
工学部 機械工学科

2012年4月に着任した徳納一成です。この3月までの30年弱の間、鉄鋼メーカーに在籍し、その前半は厚鋼板の製品開発、後半は米国駐在員、海外アライアンス、霞が関での科学技術政策立案などを担当してきました。大同大学では、本職「材料屋」として、「鉄鋼材料及び非鉄金属材料の機械的性質に関する基礎研究」を通して若い学生の教育を行っていく所存です。鉄鋼は英語では本来「不可算名詞」の「steel」と記載されますが、業界では抵抗なく「steels」と言います。材料には数限りなく「たくさん」の可能性があり、成分系、加工法、熱処理でいかようにも化けます。今後、それらの「本質」の一端を学生と共に紐解き、育てた学生を社会に送り出していきたいと思っています。



**山田雄太 准教授**  
教養部 保健体育教室

2012年4月に教養部保健体育教室に着任しました山田雄太です。日本体育大学で体育理論、実技を学び、卒業後東京大学大学院でスポーツ科学を学びました。その後、全日本男子バレーボールチームのデータアナリストをさせていただき、大変貴重な体験をすることができました。専門はスポーツ科学、バレーボールです。大同大学では今までの経験を活かし、講義、実技の授業、バレーボール部の指導をさせていただいております。スポーツを通じて学生の人格の形成、健康の維持増進を促したいと日々努力しています。

## 人事

- 異動【法人本部】
  - <事務職員> (H24.1.1)
    - 大脇 崇浩 法人本部 経理室長
    - 志水 登 法人本部 経理室 主席部員
    - 野島 大策 法人本部 経理室
- 採用【大学】
  - <教育職員> (H24.3.1)
    - 武田 秀雄 工学部 電気電子工学科 教授
    - 橋本 雄一 工学部 電気電子工学科 教授
- 退職【法人本部・大学】
  - <教育職員> (H24.3.31)
    - 土田 豊 工学部 機械工学科 教授
    - 稲熊 幸雄 工学部 電気電子工学科 教授
    - 坂 貴 工学部 電気電子工学科 教授
    - 関谷 昌久 工学部 電気電子工学科 教授
    - 遠藤 敏夫 情報学部 情報システム学科 教授
    - 愛知 久史 情報学部 情報システム学科 准教授
    - 佐々木 秀太 教養部 人文社会教室 教授
    - 溝口 健二 教養部 外国語教室 教授
    - 曾我 静男 教養部 教職教室 教授
    - 並木 浩一 情報学部 情報デザイン学科 教授
  - <事務職員> (H24.3.31)
    - 田中 久博 法人本部 本部長付 主席部員
    - 志水 登 法人本部 経理室 主席部員
    - 甲谷 昭一 大学事務部 キャリア支援室 主席部員

- <嘱託職員> (H24.3.31)
  - 吉岡 義春 法人本部 入試・広報室
  - 石垣 信明 工学部 総合機械工学科
  - 望月 孝雄 工学部 都市環境デザイン学科
  - 土屋 宝士 情報学部 情報デザイン学科 研究支援センター
  - 澤木 弘
- 採用【大学】
  - <教育職員> (H24.4.1)
    - 徳納 一成 工学部 機械工学科 教授
    - 竹内 義則 情報学部 情報システム学科 准教授
    - 柴田 慎一 情報学部 情報システム学科 講師
    - 山田 雄太 教養部 保健体育教室 准教授
  - <事務職員> (H24.4.1)
    - 平林佳代子 総務部 総務室
    - 日高 美鈴 総務部 人事室
    - 水野 裕子 大学事務部 学務室
    - 井上 章子 大学事務部 図書館室
    - 伊藤 恵子 大学事務部 学生室
    - 加藤 淑恵 大学事務部 学生室
- 昇任【法人本部・大学】
  - <教育職員> (H24.4.1)
    - 嶋田 喜昭 工学部 建築学科 教授
    - 併任 工学部 都市環境デザイン学科 教授
    - 棚橋 秀行 工学部 建築学科 教授
    - 併任 工学部 都市環境デザイン学科 教授
    - 渡邊 慎一 工学部 建築学科 教授

- <事務職員> (H24.4.1)
  - 加納 勉 総務部 総務室 主席部員
  - 兼 大学事務部 教務室 主席部員(部長待遇)
  - 鈴木美喜男 総務部 管財室長(次長待遇)
  - 高橋 昌弘 大学事務部 キャリア支援室 主任部員(課長待遇)
  - 稲垣 幸男 大学事務部 研究・産学連携支援室(主査待遇)
  - 河村 安徳 法人本部 経理室(主査待遇)
  - 森川 博光 法人本部 入試・広報室(主査待遇)
  - 生川 健之 大学事務部 学生室(主査待遇)
- 異動【法人本部】
  - <事務職員> (H24.4.1)
    - 高橋 鉄男 大学事務部 次長
    - 日比野忠雄 法人本部 入試・広報室 主席部員
    - 兼 法人本部 本部長付
    - 鈴木美喜男 総務部 管財室長
    - 佐藤 光彦 総務部 管財室 主任部員
    - 小堀 貴夫 法人本部 入試・広報室長
    - 片岡 智幸 大学事務部 図書館室長
    - 肥田 聡 大学事務部 教務室長
    - 相原 美輝 大学事務部 教務室 主任部員
    - 安田 英基 総務部 総務室
    - 森川 博光 法人本部 入試・広報室
    - 木村 雅美 大学事務部 キャリア支援室
    - 都築 基 大学事務部 教務室
    - 生川 健之 大学事務部 学生室

# No.77 2012.12 DAIDO CAMPUS







## Daido Formula Project 2012

### 第10回 全日本 学生フォーミュラ大会 フォーミュラEVプレ大会で見事、優勝!

9月3日(月)から7日(金)まで、小笠山総合運動公園(エコパ)で開催された「第10回 全日本 学生フォーミュラ大会」。EV(電気自動車)が本格的な普及を始めているなか、大会と併行して、「フォーミュラEVプレ大会」が開催されました。そのフォーミュラEVプレ大会に、大同フォーミュラプロジェクト(DFP)がエントリー。見事、EV最優秀賞(優勝)に輝きました。

#### フォーミュラEVプレ大会優勝の軌跡

昨年開催された第9回大会まで、8年間(第2回から)連続参戦してきたDFP。毎年およそ10人のメンバーで一年間かけて車両を製作し、大会に挑んできましたが、昨年末にDFPは解散しました。しかし今年、フォーミュラカーを卒業研究のテーマにしたい、全日本学生フォーミュラ大会に参戦したいという強い気持ちを持っていた山本佳祐さん(工学部 機械工学科4年)らがDFPを再結成。これは彼らのチャレンジの軌跡です。

#### チームキャプテン：山本佳祐(工学部 機械工学科4年)

フォーミュラカーの研究はとて大変だと聞いていたのですが、卒業研究の中でも一番やりがいのある研究テーマだと思っていたため、どうしてもフォーミュラカーの研究がしたいと山田喜一教授(工学部 総合機械工学科 機械システム専攻)や野田卓教授(工学部 機械工学科)に何度も頼みに行きました。しかし、頼みに行った時期が遅く、フォーミュラカーの製作をするには時間が足りないなど卒業研究としてフォーミュラを取り組むにはあまりにも多くの問題がありました。しかし例年参戦しているガソリン車では大会に間に合わないが、今回導入されたEV大会であれば前年度のフレームを使えるルールから、EVフォーミュラカーで大会に参戦することを山田教授が提案してくれました。結果、山田研究室でフォーミュラカーの研究に取り組むことになりました。チームメンバーは、畑岡工、平松亮二、儀賀信人(工学部 機械工学科4年)と私の4人。

私たちは第9回大会に出場した車両をベースとし、「低価格でのEVコンバート」「音を楽しむ」をコンセプトに車両開発を行ってきました。

「低価格でのEVコンバート」においては、バッテリーを鉛蓄電池にすることでリチウムイオン電池に比べ、大幅なコスト削減を達成しました。



また、ガソリン車と共通のレギュレーションを満たしつつ、EV特有のレギュレーションに沿って車両を製作する上で、既存のフレームに取り付けられている部品を再利用し、新たな部品の取り付けを最小限に減らしました。

「音を楽しむ」においては、社会のニーズに対応しているEVにもかかわらず、日本の学生フォーミュラ大会のEV参加校の少なさを私たちは「音」にあると考えました。EVの静かさは利点でもあります。エンジン音に魅力を感じている人も少なくありません。この課題をクリアするため、私たちはあえてサウンドを人工的に発生させることで、従来通りの音はもちろんのこと、運転手の好みの音を響かせ、楽しむことを実現しました。

今年度はEVに初挑戦ということもあり、「エンデュランス完走」を目標に活動してきました。少ないメンバーで、さらに活動開始が4月の後半。不安だらけのスタートから始まりました。そのため、大会まで全員休みなく、毎日夜遅くまで活動し、徹夜も何度もありました。

大会初日の電気車検では、先日の支部合同試走会での指摘をすべて修正したことで、予定通りに合格することができました。しかし、2日目の技術車検では思わぬ箇所を多数指摘され不合格。それでもチームは落ち着いてすぐに原因を修正し、再車検では無事合格をもらうことができました。

静的審査では、メンバーのほとんどが初めてということで戸惑いもありましたが、どの審査も事前に準備していたため大きな問題もなく、無事にすべての審査を終えることができました。

動的審査では、スキッドパッド、アクセルレー



ション、オートクロスの種目で4人のドライバーがミスなく確実に走行を重ねることができました。また、エンデュランスではトップバッターとして走行。途中バッテリーの充電切れにメンバー全員が心配しましたが、ドライバーの冷静な判断により、目標としていたエンデュランス完走を達成することができました。

結果として、EV最優秀賞、EV最優秀コスト賞を獲得することができました。EV最優秀賞を獲得したため、学生フォーミュラの雑誌にEV最優秀賞のレビューが掲載され、10月の東京お台場での展示会に招待されました。

このような結果を残せたのもフォーミュラプロジェクトを再開させていただき、私たちに多くの時間を使っていた山田教授のおかげだと思っております。また、何もかも初めてで、わからない私たちに毎日親切に夜遅くまで付き合っていた前年度DFPメンバーの伊藤光さん、大野一馬さん(大学院 機械工学専攻1年)、柴田英治さん(大学院 機械工学専攻2年)にも大変感謝しております。そして大学関係者を始め、ご協力いただいた多数の企業の人たち等、応援していただいたすべての皆様に感謝しております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

## ロボット競技大会「BRAVE」で念願の初優勝!



ロボット研究部が、神奈川県川崎市産業振興会館で開催された、第12回小型ロボット競技大会「BRAVE」に出場し、念願の初優勝を果たしました。この競技は障害物が点在するおよそ2m四方のリングの中でロボット4台が同時に戦い、互いを転倒させる、もしくは場外へ押し出すなどして持ち点を奪い合う形式です。ロボットは大きさ60cm×30cm×20cm以下、重量1.5kg以下の制限があります。

出場ロボット23台でトーナメント予選を行い、決勝に残った4台中3台が大同大学ロボット研究部という快挙を成しえました(残り1台は東京工科大学)。

そして稲垣友喜さん(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)が「Bad Dream」を操縦して優勝し、毎回恒例

の優勝賞品である米30kgをかついで持ち帰りました。

また、橋爪圭太さん(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)と、西嶋駿さん(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)が優秀賞を獲得し、橋爪さんは最速タイムを出して「スピードスター賞」も受賞しました。その他「デザイン賞」を谷川傑さん(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)が受賞するなど、7個の賞の内、5個を本学ロボット研究部が独占して圧倒的な存在感を示しました。



片桐さん

とは別の、重量を増した機体で、50台のロボットによるトーナメント試合で勝ち残りました。ロボット研究部によるロボファイト優勝は2年ぶり、ロボファイト8(2008年)、ロボファイト9(2009年)、ロボファイト11(2010年)に続く快挙です!

## 「ロボファイト13」で見事、優勝!

ロボット研究部は、8月5日(日)に大阪工業技術専門学校(大阪市北区)で開催された2足歩行ロボット全国大会の「ロボファイト13」に参加し、片桐純平さん(工学部 機械工学科3年)が2

部門の内、参加台数が多いSRC(小型機1.8kg以下級)部門で見事優勝しました。

片桐さんのロボット「おおすみ」は、昨年彼が「第3回ROBO-ONE Light」で優勝した「ひてん

## 初めての海外遠征で大活躍!! 『“驛威杯”中日大学生チャンピオンロボット競技デモンストレーション』で優勝!

9月10日(月)から16日(日)までの一週間、本学ロボット研究部の片桐純平さん(工学部 機械工学科3年)、稲垣友喜さん(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻3年)、西嶋駿さん(同)、根岸基洋さん(工学部 電気電子工学科3年)が、本学と提携関係にある中国広東省の韓山師範学院に招待され、ロボット競技会を通じて交流を深めました。

この大学と産学連携を行っている玩具メーカーがスポンサーとなって、広州市の広東技術師範学院と西安市の太原理工大学の2校も招いて計4校での競技会が行われました。競技会と言っても、ロボットの規格が大きく異なりますので、各チームが自分たちのロボットのデモンストレーションを行い、設計力、製作力、技術力、デザイン力などをアピールします。それを8名の審査員が採点して競うというルールです。ロボットの種類は互いに異なりますが、どのチームも競

技会での優勝経験を持つ強豪校です。

3番手に登場した本学は、前半、2足歩行ロボット2台によるロボットバトルを紹介しました。それぞれのロボットの特徴がよくわかるようにプログラミングしておいたので、必殺技や相手を倒した時のキメのポーズが面白いように決まり、会場からは大きな歓声が上がりました。後半は多足歩行ロボット2台によるロボットバトルですが、渡航前日に川崎で行われた競技会で優勝した余勢を駆ってのデモです。激しい衝突動作やそれとは対照的な精緻なメカニズムに会場の視線は釘



▲デモ中

づけでした。

肝心の審査結果ですが、そもそも大学の親善交流が主目的だったので、各大学1つずつ賞がもらえるように4種類の賞が準備されていたのですが、なんと4つの評価項目のうち3つで本学がトップだったため、総合優勝という名前に変えて賞をいただきました。

初めての海外遠征で不安もありましたが、表彰式後も記念撮影や質疑応答などが延々と続き、非常に和気あいあいとした濃密な交流ができ、たいへん良い経験になりました。



▲授賞式

## 若宮まつりで山車のからくり人形保存活動に参加

5月15日(火)、16日(水)に名古屋三大祭の一つといわれる若宮まつりが開催され、その際に曳き出される山車「福祿寿車」のからくり人形の

保全、また当日のからくり人形の操作を今井健人さんと中野博貴さん(共に工学部 ロボティクス学科4年)が行いました。



▲今井さん(左)と中野さん(右) 後ろは山本さん



参加するきっかけはロボティクス学科の先輩の山本見大さん(2011年度大学院工学研究科修士課程機械工学専攻修了)が参加していたもの

を、卒業にあたり引き継いだとの事。

昨年10月頃から準備を始め、からくり人形の糸を張り替えたり、からくり人形の操作方法を地域の人たちから学びました。

当日は、指示に合わせながら、見事からくり人形を地域の人と協力して動かし、見物客から拍手喝采を浴びました。さらに10月の名古屋まつりにも参加。最後に今井さんは、「若者が僕たちしか居ないので、一緒に参加してくれる人を募集しています」と話していました。



# 学生の 勇姿!

## 吉村由美子さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻4年) 「Androidアプリコンテスト2012 Summer」 で優秀賞を受賞

「Androidアプリコンテスト2012 Summer」スキマ時間充実部門において、定岡伸吾研究室の吉村さんが優秀賞に選ばれました。

このコンテストは、株式会社アットステージが「集え!次世代アプリクリエイター」として仕事効率

化部門、女子力アップ部門、スキマ時間充実部門の3つの部門でアプリを募集。移動の時間や仕事・勉強・家事の合間でも、要件を処理したり気分転換が図れるようなアプリを募集した「スキマ時間充実部門」で、吉村さんは、「VegetapulAlarm」



というユニークなアラームアプリを制作。見事優秀賞に選ばれました。

## 学生を中心とした若者たちの手によって制作されたエコがテーマのフリーペーパー 『ecoRecoあいち』創刊

愛知県では、2010年に名古屋で開催されたCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)をきっかけに、生きものの生息環境をつなぐ生態系ネットワークづくりを進めています。この「命をつなぐPROJECT」では学生実行委員が中心となって、知多半島の臨海部に立地する大同特殊鋼株式会社を始めとする、他10社の企業に協力を得、10キロにも及ぶ企業緑地(グリーンベルト)を、キツネやウサギなどの野生動物が息できるような森に変えていくための取り組みを進めています。

COP10と同じ年の2010年に大同大学で開催された、地域の環境保全と活用を考える学生主体の環境イベント「CASE3 藤前干潟学生環境サミット」プレゼンテーション大会で「エコと地域活性化をテーマとしたフリーペーパー」の創刊が提案され、2011年「命をつなぐPROJECT」

において評価された結果、2012年9月にこのフリーペーパー『ecoReco あいち』が創刊される運びとなりました。

本誌は、企業や行政、地域、NPO、若者が協力しながら生物多様性向上や、次世代を担う若者の育成を目指して活動する「命をつなぐPROJECT」の一環として学生を中心とした若者たちの手によって編集されています。毎月、愛知県および周辺の生物多様性やエコをメインテーマに楽しくわかりやすい記事が掲載されます。CASE3で学生実行副委員長を務めた北出真さん(工学部 都市環境デザイン学科4年)の卒業研究は、今回の「命をつなぐPROJECT」に関連していますので、その研究成果は次号以降の記事になる予定です。

また、工学部 建築学科 土木環境専攻1年の神山雄太さんと新里真弥さんは「環境について

知りたい、また知ってもらいたい」との強い思いから学生実行委員として活動しています。

9月21日(金)、名古屋市内のホテルで『ecoReco あいち』の創刊を記者発表。大村秀章愛知県知事やNPO法人日本エコロジスト支援協会の理事長を務める本学奥村博司理事長、理事を務める本学大東憲二教授(情報学部 総合情報学科長)らが出席。翌日の中日新聞に掲載されました。



## 杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)×FILM部 短編映画『道徳通商店街物語 part 2 (仮題)』、13日クランクアップ!

11月11日(日)~13日(火)の3日間、情報デザイン学科メディアデザイン専攻の杉本幸雄研究室とFILM部が、名古屋市南区の道徳通商店街で、映画撮影を行いました。監督は、4年生の川口勝吉さんが行い、脚本は、同じく4年生の正木洋太さんが書き上げました。

商店街で生まれ育った若者が、集団移転を迫られる商店街のピンチに立ち上がり、ご当地ヒーローを作り、商店街の人々と奮闘する物語です。

### ユーストリーム中継

杉本研究室の指導学生5人とFILM部2人、計7人の学生により、名古屋市守山区と瀬戸市を主な放送圏とするグリーンシティケーブルテレビ主催による東北支援少年サッカー大会の様子を2日間、ユーストリーム中継しました。

今回は三台のカメラを使い、スイッチャーでカ

道徳通商店街の協力の元、多くのお店、多くの人たち出演も含め協力していただきました。

今年度は、商店街連携支援事業の一環として名古屋市からの補助金で行われ、2月中旬、上映予定です。

乞うご期待を!!

『道徳通商店街物語』はYOU TUBEで公開されています。  
<http://www.youtube.com/watch?v=XtUAOYKNSlw>

メラ割りをしながらの中継、実況と解説も学生が担当、ライブ感のある通信ができました。

ハーフタイムには、事前取材したチーム監督や選手たちのインタビューをVTRで流すなど、実際のテレビ中継に近い形で放送しました。



## アルバム委員会の学生による 撮影レポート

### 体育祭

10月13日(土)、14日(日)の二日間、学生会執行委員会主催の体育祭が開催されました。昨年度から引き続きのバスケットボール、ソフトボール競技とともに、今年度は新たにフットサル、卓球種目が増え、多くの学生が熱狂していました。特にフットサルは非常に盛り上がり、観戦者も選手たちと一緒に楽しむことができました。また、選手たちは試合の合間にミニ

ゲームに参加するなど、他の競技の選手たちとも交友を深めていました。全競技が終わった後はピンゴ大会が行われ、最後の最後まで学生の勢いは変わることがありませんでした。競技に参加する学生の姿勢は活気に溢れ、少し肌寒い天候にも関わらず、非常に楽しんでいました。その場に在るすべての人の思い出として残る素晴らしい体育祭でした。



### レガッタ大会

11月4日(日)、今年度もクラブ委員会主催のレガッタ大会が開催されました。今回は天候にも恵まれ、晴天の中、レガッタ大会を行う事ができました。クラブ参加18チーム、一般参加10チームの計140人が競技者として参加しました。チームの息が合っていないとうまく進むことができないこのスポーツでは、最初は悪戦苦闘していたチームが多々見えましたが、徐々に上達していき、この大会を通してよりよ

いチームワークを築く事ができたと思います。また、あと一歩のところまで勝利できず、悔しさを噛みしめていたチームや、参加チーム同士お互いの交流を深め合うなど、それぞれに色々な思い出を作れたのではないのでしょうか。レガッタ大会に参加した学生、一般の方々は、活気に満ち溢れ、秋の寒さなど感じさせない白熱した素晴らしい大会になったと思います。



	チーム名	
	クラブの部	一般の部
優勝	プリティキュア(吹奏楽団)	山田錦(吹奏楽団卒業生)
準優勝	PONTA!!(自動車部)	同窓会あいち支部 七笑会連合
3位	Meem Racing Factory(モータースポーツ部)	大同仕事人(職員チーム)

### ハンドボール部試合

10月20日(土)、本学の体育館でリーグ戦が行われ、中部大学と対戦しました。たくさんの観戦者と試合の行方を見守りました。吹奏楽団も応援のために駆けつけていました。試合開始の合図とともに、両校激しい攻防が巻き起こり、ひと時として目の離せる場面がありませんでした。試合前半は、中部大学を巧みなプレーで圧倒していましたが、後半になると点差が徐々に縮ま

り、ついには逆転されてしまいました。その後も点を取っても、すぐに取られてしまう展開が続き、敗戦という結果となってしまいました。負けてしまいましたが、たくさんの応援や声援の中でプレーしている選手の姿は、深く印象に残っています。観ていたもの全員が息をのんでしまうような素晴らしい試合でした。



### ラグビー部試合

11月4日(日)、ラグビー部の今シーズン最終戦が愛知学院大学グラウンドで行われました。対戦相手は愛知学院大学歯学部。試合前、円陣を組み、見ていた私たちを驚かせるような団結力を見せつけてくれました。試合開始のホイッスルと同時にみんな試合に集中してお互い一歩も譲らないプレーをしていました。点数をとられても、すぐ次にとりかえすという気迫が見ていた私たちにも感じられ、とても印象に残った試合でした。残念ながら試合には敗れ

ましたが、みんなで団結しプレーしていた選手たちの姿は、深く印象に残っています。とても見応えがある素晴らしい試合でした。





澤岡昭学長

## 「愛知県医学検査学会」で講演



5月27日(日)、名古屋市立大学で「愛知県医学検査学会」が開催され、特別講演として澤岡学長が「20年目を迎えたわが国の有人宇宙活

動」と題し、講演しました。

この学会は、「臨床検査技師」「医療メーカー」「医療関係者」から構成され、当日はおおよそ600人の参加がありました。講演内容は、NASAのスペースシャトルによる宇宙開発の歴史から幕引きまで、日本人宇宙飛行士の活動や船内生活での困難な事例など、興味深い内容でした。会場には、立ち見も含めておおよそ250人の聴取者が参加、特に「トイレの問題」では我々が想像もしないような現象が宇宙では平然と出現し、その対処に日本人宇宙飛行士が

真剣に対応した報告(トイレ掃除)など、聴取者にとっては驚きと新鮮な話題に触れることができ、おおよそ1時間の講演ではありましたが、学長のトーンを抑えた話しぶりに、全員が引き込まれる講演でありました。

講演後の質疑応答では、「学長としての学生への期待」「宇宙で金環日食は見るができるか」などの発言があり、学長持論の「目覚めDNA」や「衛星は多数あるが、位置関係でいつでも見られるものではない」など、参加者も満足する話題提供で講演会は終了しました。

## 富山市の小・中学校でシリーズ講演

11月5日(月)、澤岡学長は富山市立芝園小学校と中学校で宇宙についてのシリーズ講演会(1年おきに3回実施)の最終講演(3回目)を行いました。

富山市中心部では著しい小学生の減少から、4つの小学校が統合し、芝園中学校の改築と合わせて、中学校の敷地内に新しい小学校の校舎を建設しました。図書館など校舎の一部を共通設備とする全国的にもユニークな

試みとして2008年に新校舎が完成。澤岡学長は新校舎竣工以来1年おきに今年で3回目の講演を行いました。小学校は5・6年生が対象で、第1回を聴いた5年生が今年は中学3年生。澤岡学長は感想文の変化を楽しみにしているようだ。

このシリーズ講演会は中学校同窓会が企画しました。



▲澤岡学長(左)、同窓会長(右)と子どもたち

武田秀雄 教授(工学部 電気電子工学科)

## 第68回 電気学術振興賞(論文賞)を受賞

5月24日(金)に都市センターホテル(東京都千代田区)で開かれた、電気学会主催「第100回通常総会」の席上で、「第68回電気学術振興賞」の授賞式が行われました。論文賞に選定された武田教授の論文「パ

ワーエレクトロニクス設計のための瞬時値シミュレーション」は、『電気学会D論文誌 131巻第2号、2011年』に掲載されました。

また、『電気学会誌7月号』には受賞者が紹介されました。

大東憲二 教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

## 「配慮書段階の環境アセスメント技術手法に関するワークショップ」で座長を担当

9月28日(金)、アクロス福岡で環境省主催の「配慮書段階の環境アセスメント技術手法に関するワークショップ」が開催され、分野別パネルセッション「健康・生活環境分野」の座長を大東教授が務めました。

平成23年4月、環境影響評価法の改正法が成立・公布され、平成25年4月からは、事業の早期段階における環境配慮を図るため

の「計画段階配慮書」等の新たな手続が施行されます。これに伴い、事業者が行う配慮書手続が適切な水準となるよう、配慮書手続における調査、予測及び評価等の具体的な手法を示すことが求められます。このため、環境省では、平成24年度末を目標に、配慮書手続に関する事業種横断的な「技術ガイド」を作成することとし、検討作業を進めています。

今般、この「技術ガイド」の検討の一環として、これをより実践的かつ効果的なものとするため、環境アセスメントに関係する専門家や実務担当者等と広く意見交換を行うことを目的として、この公開ワークショップが開かれました。

溝口正信 教授(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)

## 中部地方発50kg級小型人工衛星を開発

溝口教授、田島宏康教授(名古屋大学)と、航空宇宙分野に携わる中部地方の中小企業24社が共同で小型人工衛星の開発を進め、1号機「ChubuSat-1」を今年の12月、ロシアで打ち上げる予定です。

1号機「ChubuSat-1」は、1辺おおよそ50cmの立方体で重さはおおよそ50kg。打ち上げ後は、太陽光で発電して動くよう設計されています。可視光カメラおよび赤外線カメラを搭載し、大気中の二酸化炭素量や地表の温度の調査、地球の軌道にある宇宙ごみの監視、津波の浸水範囲など大災害発生時の被災地の観測などに活用される予定です。また、一般のアマチュア無線利用者向けの中継サービスにも利用され

ます。

溝口教授は朝日新聞の取材で「安くても信頼性を高めることが重要。数百億円かかる衛星の開発費用を、いずれは100分の1にできれば」と話しました。衛星による宇宙・地球環境の観測が容易になると、より包括的な宇宙・地球環境の開発が可能になり、「宇宙利用による大学の研究活動の拡大」や「中部地方中小企業の活性化」も期待できます。

この情報は、中日新聞・読売新聞・朝日新聞や、CBC「イッポウ」(毎週月～金、16:50～19:00放送)など、さまざまなメディアで紹介されています。



▲朝日新聞(2012年1月4日)

田中秀和 教授(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

## 日本技術士会会長表彰を受賞

6月27日(水)、経団連会館カンファレンス(東京都千代田)の2階国際会議場で開催された、公益社団法人日本技術士会の総会において、日本技術士会の運営に貢献したとして、田中教授が会長表彰を受けました。

会場は総会とあって500人近い人が集まり、また懇親会には衆議院議員2人(技術士<技術士資格は文部科学省の所管の国家資格>)、文部科学省や国土交通省の関係者、関連する学協会の会長、常務理事らも参加していました。



武藤隆 准教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

## 「岡崎アート&ジャズ2012」出展

あいちトリエンナーレ地域展開事業実行委員会主催のあいちアートプログラム2012「岡崎アート&ジャズ2012」に招待作家として、武藤准教授が出展しました。

「岡崎アート&ジャズ2012」とは、岡崎市の中心市街地で開かれる初めての現代美術展。歴史の街岡崎を象徴する岡崎公園、昭和の面影を留める百貨店岡崎シビコ、昭和初期に建造された

洋風住宅岡崎市旧本多忠次邸等を会場に、13組14名の作家が、それぞれの場所に向き合いながら作品を制作・展示。何世代もの時間と記憶が折り重なった岡崎の街。作品を通してこの街を見つめ、この街を通して作品の魅力や体験していただければという思いのもと、開催されました。



鷲見哲也 准教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻)

## NHK『ほっとイブニング』でコメント

10月19日(金)、NHK『ほっとイブニング』(毎週月～金18:10～19:00放送)、特集「流域で判断分かれた避難情報」において、鷲見准教授がコメントしました。

今回の特集は、台風17号で愛知県西部を流れる福田川の水位が上昇したことに対して、住民への避難情報発表の判断が流域の市町村

によって分かれたことに関するレポート。

そのレポートの中で鷲見准教授は、市町村の担当者への避難判断に関わる情報が不足していることを指摘し、情報伝達の仕組みづくりが必要だとコメントしました。





渡部裕子 講師(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

## 三越のショーウィンドーに 立体書作品を展示

この度、三越さまからのご依頼で、5月30日から8月7日にかけて三越1階外ショーウィンドー、ラシック1階パサージュ、他計5ヶ所に、渡部の立体書の作品を展示していただきました。読むという用途ではなく、文字のカタチが崩されるというところに芸術性を見出すことで

きる書は、文字という素材を借りて作者の主観を表現するところの線芸術です。

1次元の線芸術を、3次元の立体で表現した作品を、自由に、心のおもむくままに鑑賞していただければ幸いです。



## 境内アートに招聘出品

5月21日(月)、22日(火)に長野県上高井郡小布施町の玄照寺で毎年行われている境内アートにゲスト出品させていただきました。昨年度に受賞させていただきましたこのアートイベントのコンセプトは、「芸術」「文化」「交流」、そして「楽しさ」です。物質が満ちあふれているこんにち、本当に必要な物は何か? 本当の豊かさとは何か? を全体テーマ

におき、渡部はそのコンセプトに関する文字をデザインし立体書として展示しました。

「境内アート小布施×苗市」の会場は、禅宗の古刹・玄照寺。数百年の歴史を刻む仏教建築の大空間と、それを包み込む木々の新緑が舞台のこの場所に展示することができ、作品もなんだか幸せそうです。

イベント当日はインスタレーション、ワークショップもおこない、ふれあいの多い展示となりました。

## 個展を開催

9月11日(火)～9月16日(日)、セントラルアートギャラリーにて開催した渡部裕子個展 2012では、平面作品・映像・音・踊りが一つの空間に溶け込んで、まるで文字の渦の中に落ちてしまったかのような感覚を体感するための空間を創りました。個展テーマは「踊」。考えながら踊るといことがないように、考えながら作品を書くこともありません。一度筆をおろしてしまったが最後、誰もが予想もしないカタチへと文字が変化を遂げる、その過程を心から楽しみ、行為の本能へ触れる空間になったと思っています。

最終日に行われたインスタレーションでは、オーガンジーに揮毫し舞台を作りあげ、本能のままに踊るアルゼンチンタンゴとの饗宴を行いました。インスタレーションでは来場者が会場に入りきれず、お帰りをいただいたという申し訳ないハプニングもありましたが、大いに感謝するとともに、今後もさらに深い作品創りができるように精進したいと思っています。

(渡部裕子 記)



水野義雄 教授(教養部 保健体育教室)

## 全国市町村教育委員会連合会より 表彰されました

水野教授は7月13日(金)に開かれた、愛知県市町村教育委員会連合会 第46回定期総会で、2期8年間の多年に渡り、東海市教育委員

として教育行政の重責をにない、教育の振興に尽力された功績から、表彰を受けました。

西堀賢司 教授(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)

## 「有松・鳴海絞ロボット」が各種メディアで 紹介されています

西堀教授は、有松・鳴海絞の技を受け継ぐ若者が不足し、伝統が絶えるのを心配した職人から「ロボットで絞りが作れないか」との相談を受け、研究・開発を始めました。

絞りの工程の中でロボットが手伝う作業は、最も難しく、手間のかかる「くくり作業」。生地を藍などの染料で染める際、生地に糸を巻き付けて括ることで、括った部分には色がかず、独

特の模様を作り出す工程だが、ここで糸で括る代わりに、ロボットにゴムのキャップをはめこませようと考え開発、成功させました。

この情報は、中日新聞や読売新聞、CBC「イッポウ」・東海テレビ「スーパーニュース」・NHK「ほっとイブニング」・メーテレ「UP!」・中京テレビ「キャッチ!」など、さまざまなメディアで紹介されています。



光田恵 教授(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)

## 小学館『女性セブン』・朝日新聞フリーペーパー『Allen』の解説を担当

『女性セブン』(6月14日号)の「梅雨のじめじめ対策特集」内でニオイや香りについての解説頁を、光田教授が依頼を受け、担当。梅雨どき、室内で「もわっと臭」が発生するのはなぜか? そもそも部屋臭の正体とは何か? 梅雨時の室内にこもりがちな「もわっと臭」をなくす対策は? 香りやニオイをコントロールする上で「消

臭」と「芳香」はどう違うか? 部屋用の「消臭と芳香」はどう使い分けるべきか? 家庭内でさまざまな芳香用・消臭用商品を使う場合のアドバイス。一般的に、玄関・リビング・浴室・洗面所・トイレ・キッチン・寝室などの場所に

また、朝日新聞のフリーペーパー『Allen』(5月11日号)では、特集「心も体も解き放たれる”幸せな香り”」の解説を担当。「香りのメカニズム」「香りが心や体に与える作用」「より効果的な香りの楽しみ方」等について解説しました。

## 名古屋市生涯学習推進センターで公開講座を開講

7月31日(火)、名古屋市生涯学習推進センターで公開講座を開講しました。「研究最前線! 大学の知を学ぶ」と題されたシリーズ講座の一環として「生活環境のにおい・かおり-嗅覚のメカニズムと住まいの臭気源・対策-」をテーマに担当しました。

214人もの申込みがあり、多くの受講者が集まりました。

住まいのにおい対策、汗のにおい対策などの身近な話題に、参加者は熱心にメモを取っていたり、マスクングや調香のにおい嗅ぎ体験に積極的に取り組まれていました。また、質疑応答

の時間には多くの質問が寄せられ、終了後も質問者が絶えない程でした。

今回の講座で、皆さんのにおい・かおり分野に対する関心の高さを実感することができました。

## 図書館だより

### 図書案内「POP展」

本学図書館では「本の森、探検!」をテーマに、所蔵している図書の紹介カード「POP」を集めた第3回展示会を7月2日(月)から9月6日(木)まで開催しました。

展示している「POP」は、2011年に購入した図書が中心で、学生が作成したPOP作品も多く含まれています。

展示場所は図書館だけではなく、B棟、S棟および白水校舎に展示し、図書館・S棟には購入して欲しい図書の申込ができる「リクエストカード」を設置しました。

思わず読んでみたくなるような本との出会いはありましたか。





高木基充研究室・渡部裕子研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

## 第3回ポスターグランプリ (印刷工業組合主催)で入賞!

愛知県印刷工業組合、愛知県印刷協同組合、岐阜県印刷工業組合、三重県印刷工業組合が主催する、第3回ポスターグランプリで、学生数名が入賞・入選しました。

高木研究室からはシロキ賞として村澤研さん、入選は小松愛美さん、鈴木亜実さん、種田雄

一さん。渡部研究室からは、日本紙パルプ商事賞 墨哲平さん、入選は早川亨さん。

今回のテーマは「近未来への日本へのメッセージ」。年々レベルが高くなっているなかでの今回の受賞はとても嬉しい快挙といえます。



▲墨さん(左)と村澤さん(右)



▲墨哲平さんの作品



▲種田雄一さんの作品



▲小松愛美さんの作品



▲鈴木亜実さんの作品



▲村澤研さんの作品

## 第21回SAVE MEポスター展で作品展示

グラフィックデザインを学ぶ中部の大学・短大・専門学校生たちのポスター展「第21回 Save Me Poster展」が10月10日(水)から10月15日(月)まで、国際デザインセンターのデザインギャラリーで開かれ、高木研究室と渡部研究室より選ばれた

11名の学生たちが出展しました。

この展覧会は、地球環境の保全・絶滅寸前の動物たちを守りたいという想いをポスターにして訴え続けてきたもの。学生たち一人ひとり、デザインの中にそれぞれのメッセージを強く込め、今考

えなければならぬことをカタチにしました。レベルの高い他の学生作品を鑑賞して、強く影響を受けた学生も多くいたようです。

## 燃料電池研究センター(工学部 機械工学科)

### 未来のエネルギー「燃料電池」の魅力を伝える

燃料電池研究センターは、クリーンな新エネルギーである燃料電池の研究を行っています。

燃料電池といっても発電装置のことであり、水素を利用した燃料電池は水の電気分解の逆の反応で、水素と空気中の酸素を化学反応させて発電します。排出されるのは水だけで二酸化炭素や有害な排出ガスを出しません。

このようなクリーンエネルギーである燃料電池を知っていただくため、数々の高校や公的機関へ出前授業を積極的に行っています。

2002年からの堀美知郎教授(工学部 機械工学科)による燃料電池関連の講演、堀研究室による燃料電池製作体験授業の実績は、総受講生6580人です。(2012年7月時点)

堀研究室の学生も、学外へ出向くことで、貴重な経験を積んでいます。

堀研究室：山下正太郎

(大学院 工学研究科 機械工学専攻1年)

6月30日(土)名古屋市東区生涯学習センターで、小学生とそのご父母様を対象とした、燃料電池製作体験講座の講師として参加しました。初めは慣れない手つきで、子どもたちが燃料電池の組み立てをしていましたが、徐々に保護者も参加し始め、子どもと一緒に童心に戻ったかのように楽しんで燃料電池を組み立てていました。

ここ数回、このような体験講座に参加してきましたが、老若男女問わず、制作した燃料電池エネルギーでプロペラが回った時の表情は輝いていました。

大学生の時は人前で話すことが少なく、平凡な学生生活を送っていましたが、大学院生になってからは、積極的に外部の燃料電池講座に出向

くことが多くなりました。失敗を恐れずに、堂々と話すことができるようになり、自分に自信ができました。私は、たいへん貴重な経験ができています。



杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

## よしもとクリエイティブ・エージェンシーと愛知県の特産品CM共同制作

杉本研究室の学生が、愛知県の特産品をPRするCMを制作しました。これは「愛知の“こだわり特産品”CMプロジェクト」と題した、県が企画したインターネット動画を使ったPR施策の第二弾。このプロジェクトに県の「PLAY!AICHI特派員」を務める芸人コンビ「サムタイムズ」と学生が連携して取り組みました。

県内の農林業、商工団体からPRを希望する特産品を募集。「東海市のスイーツ」「渥美あさりの

押し寿司」「稲武のブルーベリー」の三本のCMを制作しました。

完成後は、愛知県庁にて記者発表が行われ、CM制作に携わった鈴木健斗さん(4年)と正木洋太さん(4年)が代表して記者会見に臨みました。

この記者会見の様子は、中日新聞、日経新聞とメーテレ、CBCのニュースでも放送されました。CMは愛知県のホームページ「わくわくあいち」で見ることができます。



▲撮影の様子



▲愛知県特産品CM記者会見

また、このCM・動画作品は、公益社団法人日本広報協会が主催する「平成24年度全国広報コンクール 広報企画部門」で入賞しました。



▲中日新聞(2012年4月17日)

## 商学連携「名商連新聞」に掲載されました



▲名商連新聞(2012年7月1日)

名古屋市商店街振興組合連合会発行「名商連新聞」に、2011年9月、杉本研究室が道徳通商店街を舞台に短編映画を製作した記事が掲載されました。

商店街の人たちの出演交渉からロケ場所の確保など、商学ががっちり連携して映画「道徳通商店街物語」が完成。映画を通じて商店街の魅力を発信しました。

紙面には、「撮影の始まりを告げるカチンコの

音とともに、商店街には、活気ある声が響きました。この映画を通じて改めて商店街は単なる買い物の場所ではなく、人と人との温かいふれあいの場所でありコミュニティの中心であることを感じました。」と掲載されました。

『道徳通商店街物語』はYOU TUBEで公開されています。  
<http://www.youtube.com/watch?v=XtUA0YKNSlw>

## 情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻

### 東海テレビ『スーパーニュース』が取材

かおりデザイン専攻が東海テレビ「スーパーニュース」(毎週月～金 16:51～19:00放送)の取材を受けました。「今なぜ、かおりが注目されているのかを探る」をテーマに光田恵教授が取材に対応。3年生の磯崎文音さん、児玉翔さん、杉江紋星さんも参加し、複数の香料を調合。さまざまなかおりを作り出しました。

また、日テレ系「所さんの目がテン!」では、かおりにおける専門家として、光田教授が出演・解説しました。





## 中島貴光研究室(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻) あいちトリエンナーレ「ALA建築プロジェクト」に参加

実在する長者町(愛知県名古屋市中区)の空き地をモデルにした空間活用の可能性を、建築を学ぶ学生たちが模型とパネルによって都市

の中の空き地について提案、考える「ALA建築プロジェクト」(7月25日(水)~8月19日(日))に中島研究室が参加しました。このプロジェクトは、愛

知県内で建築を学ぶ大学生が研究室単位で参加。参加学生によるプラン解説会や五十嵐太郎氏による講評・優秀作品表彰も行われました。

## 情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 サマーデザインワークショップ開催

9月1日(土)、2日(日)に「サマーデザインワークショップ」を開催しました。国際デザインセンター・デザインギャラリーで同時開催の「X5デザイン大同大学プロダクトデザイン展パート2」会場内で、高校生を対象としたワークショップ形式で横山弥生教授、横井健二教授、井藤隆志准教授が担当しました。

2日間計4回のワークショップで愛知、岐阜、三重の3県から11人の生徒が参加し、木のコースターを各自デザインしました。皆、熱心に自分の考えるコースターのデザインスケッチを描き上げ、プレゼンテーションも行いました。

後日、4案の優秀デザインが選出され、スケッチをもとに学内で3DCADデータ化し、3次元造形機を用い、本物の木製のコースターを製作しました。

高校生の受賞者4名には、賞状と共に製作したコースターを贈呈しました。



▲製作の様子



▲作品一覧



▲プレゼンの様子



▲優秀作品



▲優秀作品

## 工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻 講評会『スーパークリティック』を開催しました

8月6日(月)、本学白水キャンパス製図室等で、『山田幸司と2012建築系ラジオのスーパークリティック』を開きました。スーパークリティックとは、故・山田幸司准教授が始めた「建築系ラジオ」のメンバー、スーパー講師による辛口だけど面白いスーパー講評会のこと。スーパー講師は、五十嵐太郎東北大学教授(建築評論家)、南泰裕国土館大学准教授(建築家)、松田達 東京大学助教(建築家)。

第1部「スーパークリティック」では、3年生が授業「建築設計3」で取り組んだ、母校(小学校)の設計を図面と模型でプレゼンテーション。その設計提案を3人のスーパー講師たちが、プロ目線で講評しました。

プレゼンした太田ひかりさん(建築専攻3年)は、「これまで取り組んできた課題の中で、今回が1番努力したし、時間も費やしてきたので、スーパークリティックという貴重な場で発表できるチャンスがいただくことができとても嬉しかった。本物の建築家の目の前で直接発表させていただくことはかなり緊張したが、いざ発表してみたらと

ても楽しかった。私の作品に対する評価・アドバイスなどをいただき、とても自分になる体験となりました。今回のこの体験で今よりもっと良い作品を考え、もっと良い作品を作りたいという気持ちが非常に強くなりました。」と話してくれました。

また、富田一貴さん(建築専攻3年)は、「昨年からの会に参加、今回は発表させていただきました。他大学の先生方にも評価していただける機会は貴重。またインテリアデザイン専攻と一緒に発表、講評も聞けるので、とても刺激的。この会で受けた刺激や人によっては悔しさが、大同大



▲プレゼンする太田さん(左)と富田さん(右)

学の建築学科をさらに盛り上げていきたいと思います。」と話してくれました。

第2部「建築の語り部たち」では、あいちトリエンナーレ2013で芸術監督を務める五十嵐先生が「あいちトリエンナーレ2013の楽しみ方」を、また南先生は「知覚のテクスチャ-音楽教室のある家-」、松田先生は「建築におけるゲーム性」と題して、学生たちに語りました。

第3部「ゲリラクリティック」では、先に実施したスーパークリティックで発表できなかった学生が、それぞれの作品・提案をもちよって、スーパー講師に講評してもらいました。



## 情報学部 総合情報学科 経営情報専攻 経営情報コース アメリカ短期留学の準備が現在進行中

情報学部総合情報学科経営情報専攻経営情報コースでは、2年生の夏休みに約1ヵ月間、必修科目「海外事情1」でアメリカ短期留学を全員が経験します。この留学の目的は、英語の取得はもちろんですが、外国の文化や外国人と直接接することを通じ肌で海外を感じてもらい、国際感覚を養うことです。

日本の社会が今後更にグローバル化する中、本コースでは大学時代に国際感覚を養い、グローバル化する社会で活躍できるビジネスパーソンを育成することを重要視していますので、本コースにとって短期留学は必要不可欠なのです。本学では2008年まで、希望者を対象としてアメリカ短期留学を実施してきましたが、必修科目としてコースの学生全員が短期留学することは本学で最初の試みです。

来月8月に最初の短期留学を実施する準備のため、9月2日から5日に、専攻主任の大東教授と同専攻の小澤准教授が留学先候補の2つの大学(オレゴン大学(UO)とオレゴン州立大学(OSU))を訪ねました。なお、両校は本学の海外提携大学(学術交流協定締結校)です。

### 広大で緑に囲まれたキャンパス

UO、OSU共に、キャンパスは広大で多くの緑に囲まれ、まるで大きな公園の中に大学があるようで、学習するための静かな環境が広範囲に亘って整っています。このように広大な自然に囲まれたキャンパスは日本では殆ど見られません。訪問した際には、大学内で頻りにリスを見ることができました。



▲OSU

## 情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 日本図学会中部支部奨励賞、受賞!

11月3日(土)、日本図学会中部支部「平成24年度秋季例会」が金沢工業大学で行なわれました。

研究発表は10題で本学からは、横井健二研究室の服部智貴さん(大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻2年)、平野ひとみさん(4年)



▲UO

また、大学内には飲食施設(カフェテリアやコーヒーショップ)や買物施設(コンビニ)が充実しており、学習以外の生活でも不便のない環境が整っています。



▲OSUのカフェテリア



▲大学内で見られるリス(UO)

### 多くの外国人が参加する授業

OSUでは、英語の授業を見学できました。訪問したクラスは会話の初級クラスで、韓国人、中国人、サウジアラビア人、ドイツ人、日本人が同じ教室で同じ授業を受けていました。2人もしくは3人でグループを作り、グループ内で互いに会話の練習をするのですが、会話の相手は全員外国人です。

で、互いに共通する言語は英語だけです。このように、外国人と英語の会話をするを通じて、英語の学習をすると共に、外国人とのコミュニケーション能力も同時に養うことが実施されていました。

授業以外でも外国人と会話するためのスペースが用意されていたり、様々な調査を行うためのパソコンが多く設置されていたりするなど、英語を学ぶための環境も十分整っていました。



▲OSUの授業風景

### 授業以外での経験

原則として月曜日から金曜日までは英語の授業がありますが、授業後には大学近くのスーパーマーケットに買物に行くなど、アメリカの文化や習慣に直接触れると共に、実際の生活の中で英語を使うことを経験してもらいます。また、週末は湖でカヌーを体験したり、オレゴンコーストで海水浴をしたり、いろいろな活動が用意されていて、これらの中でもアメリカの文化や習慣に直接触れる経験を積んでもらう予定です。

### 国際感覚を更に深めるために...

今回、訪問したことを踏まえ、現在、提携先や教育プログラムなどに関する最終決定に向けての準備をしています。また、経営情報コースでは、2年生の後期末の春休み(3年生になる前の春休み)に、タイまたは韓国に3週間程度の短期留学を行う予定です。これは「海外事情2」という選択科目で希望者のみを対象にしていますが、アメリカとは異なるアジアの文化やアジア人と直接、接することを通じ、より国際感覚を深めたビジネスパーソンを育成する準備もしています。



と横山弥生研究室の戸田ひかるさん(4年)が発表しました。

若手研究者を対象とした日本図学会中部支部奨励賞として、服部さんの「スマートフォンアプリにおけるユーザーインターフェースデザイン」が見事に選ばれました。



## ×5デザイン専攻・リレー展

大同大学「×5デザイン専攻・リレー展」は、「建築」、「インテリアデザイン」、「プロダクトデザイン」、「メディアデザイン」、「かおりデザイン」という大同大学内のデザインに関わる5つの専攻が、

バトンを手渡していくリレーのように作品展示や作品紹介を連続して進めていくイベントです。6月5日(火)に開催したプロダクトデザイン専攻の展示から始まり、9月26日(水)に開催したメディ

アデザイン専攻のサウンドアートコンサートまで、それぞれの専攻が2~3回、国際デザインセンター・デザインギャラリー等で、実施しました。

6月5日(火)~6月10日(日)  
**プロダクトデザイン専攻**

夢をかたちにするデジタルプロトタイプを試み

6月13日(水)~6月18日(月)  
**かおりデザイン専攻**

- ・日本かおりめぐり(かおり風景の旅)-第1回-
- ・あなたが選ぶ「大同大学のかおり2012春、夏」コンテスト(学生が作成したかおりの展示)
- ・嗅覚テストかおり当てクイズ(かおり体験)
- ・住まいのにおい対策の紹介

7月7日(土)・7月21日(土)・8月4日(土)・8月18日(土)  
**メディアデザイン専攻**

FM Aichi 80.7で学生の、学生による、学生のための番組『大同大学プレゼンツ 社長の道』を制作・放送

企画と取材、そして編集までの全てを学生自らが行う、「学生の、学生による、学生のための番組」。社長の経験や考えをインタビューしながら「仕事とは何か」を考え、これから社会に出ていく学生たちに向けてメッセージを発信。

7月11日(水)~7月16日(月)  
**建築専攻 / インテリアデザイン専攻**  
未来を示す建築・インテリア

7月18日(水)~7月23日(月)  
**メディアデザイン専攻**

「グラフィックデザイン」「webデザイン」「タイポグラフィデザイン」分野の学習で力を発揮する学生・卒業生の作品展示

8月1日(水)~8月6日(月)  
**かおりデザイン専攻**

日本かおりめぐり(かおり風景の旅)-第2回-ほか

8月21日(火)~8月26日(日)  
**建築専攻 / インテリアデザイン専攻**  
未来に挑む建築・インテリア

建築専攻 / インテリアデザイン専攻の学生による展示。建築やインテリアデザインには未来へのメッセージが込められています。社会に対して、教員に対して、学生たちが多様な未来像を提案。

8月29日(水)~9月3日(月)  
**プロダクトデザイン専攻**

創造力を拓き、夢をかたちにする

プロダクトデザイン専攻では、造形デザインを学ぶとともに、工学教育と情報技術教育の成果を学ぶことで、産業界が求める実践的なプロダクトデザイナーの育成を目指しています。開設5年目を迎えたばかりで、やっとこの春送り出した卒業生。今回の展示では、学生が4年間で学んだ実習作品を紹介しました。

9月26日(水)

**メディアデザイン専攻**

サウンドアートコンサート

学生が制作した作品、歴代の優秀作品の再演、卒業生を招いての招待作品、講師演奏などさまざまな作品を発表。大同大学にコンピュータサウンドというジャンルが誕生してから、今年で6年。その間に本学では、数多くのユニークで興味深い作品が生まれてきました。それはメディアデザイン専攻の特色である、サウンド、グラフィック、映像、Webといったさまざまなジャンルを学ぶことによって、幅広い表現方法を得ることができるからです。それらを組み合わせることで、より強く人の心に届くメッセージになるのです。



吹奏楽団

## 柴田学区、笠寺学区の交通安全パレードに参加

地域の交通安全意識を高めようと毎年行われている、柴田学区の交通安全パレードに今年も吹奏楽団が参加しました。公民会、女性部、子ども会、老人会、消防団、ちびっこ警察官等、様々な世代のおよそ300人が参加、地域を1時

間ほどパレードし、交通安全を呼びかけました。この様子は南ホームニュース(6月9日)に掲載されました。

また、6月3日(日)には笠寺学区の交通安全パレードにも参加しました。



情報センター

## 東日本大震災被災中小企業復興支援再生PC寄贈プロジェクトへの参加

本学も会員となっている「大学ICT推進協議会」と「東北六県商工会議所連合会」等が協力して、東日本大震災被災中小企業復興支援再生PC寄贈プロジェクトを実施しています。このプロジェクトは、東日本大震災で被災した三県(岩手、宮城、福島)で事業再開に取り組む商工会

議所会員中小企業の支援を目的に、現在大学で保有しているパソコンを再生した上で、無償で提供するというものです。

本学も、このプロジェクトの方針に賛同し、3月まで大学院生に貸与していたパソコン合計19台を寄贈しました。寄贈したパソコンはマイクロソフ

ト社によりOS、Officeソフトなどがインストールされ、被災地の中小企業に送られることになりました。

来年3月に貸与が終わるパソコンも同様に寄贈する予定でおり、引き続き被災地の復興を、微力ではありますが支援していく予定です。

## 出版紹介

### 『宇宙はすぐそこに -「はやぶさ」に続け!-』

著者：澤岡昭 学長

本書は日本のロケット開発の先駆者・糸井英夫博士のペンシルロケットから小惑星探査機「はやぶさ」までの日本の宇宙開発の歴史、宇宙飛行士の魅力と宇宙での生活などが分かりやすい文章で書かれ、宇宙を身近に感じさせます。澤岡学長は宇宙航空研究開発機構(JAXA)の技術者として国際宇宙ステーションの利用計画にかかわってきました。本書は2009年6月から今年の3月まで中日新聞朝刊に月1回連載した「宇宙は手の届くところに」を加筆、再構成したもの。写真も全面的に見直しJAXA、NASAなどの協力で多数の貴重な写真を掲載。星やロケット、宇宙ステーション、宇宙飛行士の活躍などが鮮やかなカラーで紹介されています。1項目を「ミッション」として全34ミッション。「はやぶさ」や「アポロ13号」の「奇跡の生還」、世界から注目を集める日本の宇宙ヨット、GPSの精度向上に挑戦する日本の準天頂衛星「みちびき」など、ワクワクする話満載です。



定 価：1,200円(税込)  
A5版オールカラー、144頁

### 『かたち創造の百科事典』

共著：横山弥生 教授

(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)  
新しいデザインのためのヒント集「かたち創造の百科事典」人間の創る建築物、機械製品、ファッションから、自然の作る様々な生物や鉱物などのかたちは、多角形・曲線・多面体・曲面といった様々な形の組合せで成り立っており、かたちそのものが重要な役割を担っています。本書では科学から芸術に至るまであらゆる分野で、これからの「新しいかたちの創造」に欠かせないかたちの基本パターンについての図形データ・作品例・応用例などをCGを用いて解説します。基礎編、実践編、応用編の三部で構成。執筆者は科学から芸術までの各分野のかたちに関わる専門家約60名で230項目を収録します。



出版社：丸善出版  
定 価：12,000円(税込)  
A5判・576頁

### 『天恵と天災の文化誌 ～三陸大震災の現場から～』

共著：鷲見哲也 准教授

(工学部 建築学科 土木・環境専攻)

学術書ではないと言えるだろう。エッセイであり、主張であり、それぞれの人の記録である。役所担当者、支援、調査、文化財救出。それぞれに携わってきた人々が語る本。

鷲見哲也 共著部分  
第2章「大槌の津波、湧水、まちづくり」、44ページはじめに / 自身の震災体験 / 震災後の調査 - 湧水と井戸 / 震災後 - 湧水・自噴井とまちづくりへ / そのときに考えたこと - 逃げる、自治体相互支援、メディア / まちづくりとリスクと覚悟 /

森誠一(岐阜経済大学・教授) 編  
東北出版企画、2012年9月、241ページ。  
ISBN978-4-88761-084-2、定価2,000円(税込)

### 今日からモノ知りシリーズ

### 『トコトンやさしい においとかおりの本』

共著：光田恵 教授 / 福井寛 客員教授

(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)

私たちのまわりには、さまざまな「におい」があります。歯磨きや朝食のにおい、お味噌汁のにおい、アロマテラピーや香水。またあまり意識はされませんが、食品や化粧品、ハウスホールド製品にも香料が使われています。においは良いものはばかりではありません。ある人の好むにおいも他の人には悪臭と感ずることもあります。また、工場の嫌なにおいや生活の中で感じるトイレや生ごみのにおいなどは悪臭で、快適な生活には悪臭除去は大切です。本書ではこのようないろいろな顔を持つ「におい・かおり」をトコトンやさしく解説することを念頭に置きつつ、それぞれの筆者が得意とする分野を担当し全6章にまとめたものです。嗅覚にはどんな役割がある?、においのマスクの仕組み、貴重な天然香料、香りの頂点「香水」、悪臭成分とはどんなもの?、嫌な体臭の発生を抑制、など分かりやすく解説しています。

- 第1章 におい・かおりの世界
- 第2章 においを感じる仕組みを知ろう
- 第3章 活躍する香料
- 第4章 生活に利用される香り
- 第5章 悪臭をやっつける
- 第6章 においの分析や評価の方法



出版社：日刊工業新聞社  
定 価：1,470円(税込)

### 『技術者倫理 日本の事例と考察 -問題点と判断基準を探る』

共著：田中秀和 教授

(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

より身近な日本の事例を取り上げて分析する技術者倫理の事例集。わが国で技術者倫理の教育が始まって10年以上になるが、今までその教科書には技術倫理の先進国である欧米の事例がもっぱら使われてきました。今回、わが国のプロフェッショナル・エンジニアを代表する機関である日本技術士会のメンバーの実務経験の中で集められたより身近な事例が一冊の本となって刊行されました。業種を絞らず多岐の技術分野にわたり、重要な倫理問題となった事例を取り上げ、事実関係の概要と経緯、争点、判断基準、考察、結論というフォーマットに則った構成で、わかりやすく解説します。

出版社：丸善出版  
定 価：3,150円(税込)

